

# 以身伝しんぶん

## 冬木記者による展覧会と関連イベントレポート



《考える人》で有名なロダンの《KISS》を模した菊池とにしの写真



こちらはブランクーシの《KISS》を着想減とするもの

### 身体に向き合う、 NO-MA蔵展示

ボーダレス・アートミュージアムNO-MAに、蔵があるのをご存知ですか？  
庭にある蔵の引き戸を開けると、蔵の中にも作品が展示されています。

外気や室内とは少し温度や湿度が異なる蔵の中の空間。なにかを秘めたような仄暗さ。両方とも、作品名は「KISS」です。

真四角な奇妙な髪型に、鼻がつぶれるほどの不自然なキス。(展覧会パンフレットの表紙にもなっています)

対面する作品の「KISS」では、女性のお腹が膨らんでいることがわかります。胎児を宿したからだから、生命の神秘と欲びを鑑賞者に放つかのようです。

彫刻作品をよくご覧になる方は、もうお気づきかもしれません。1つは、コンスタンティン・ブランクーシの

彫刻作品「The Kiss(接吻)」の再現。  
もう一つは、「考える人」で有名な彫刻家、オーギュスト・ロダンの彫刻作品「接吻」の再現。

※ここで、「再現」というのは作者の思いとは違うかもしれませんが、あえて「再現」と記させていただきます。

このユニットが生み出した展示作品は、これら著名な彫刻作品を自ら、からだを通して正確に創り込み、血肉を与えたもの。そして、その、からだによる作品、を撮影し、再び、瞬間を切り取った不変の写真作品、というかたちを以って制作されました。

彫刻ならば変わることはない愛の「KISS」。けれど人間のからだは日々変化し、一秒たりとも同じ、からだ、ではあ

(記者 冬木)

りません。  
恋人時代に制作した「KISS」と、夫婦となり子を宿した女性のからだとなった「KISS」。

不変である彫刻作品と、変わるのではない瞬間を切り取った写真、

変化する関係性、命を待ち刻々と変化するからだ、

を対比することを通して、この蔵という展示空間で、生きる、変化する、からだ、や、愛、について、鑑賞者それぞれの想いを馳せていただくのも一興かと思

### 秋のNO-MA映画祭

11月11日、旧伴家住宅において「秋のNO-MA映画祭」が開催されました。

映画は2作品。  
監督…大西暢夫

『もうろうをいきる』  
監督…西原孝至

鑑賞するにあたって、考えてみます。わたし

たちは、どれだけテーマである、精神科病棟、

「もうろう」について知っているのでしょうか。

精神科病棟とは、どこかタブー視されがちな

「もうろう」のことを一般的に伝えることが目的ですが、同時に、もうろうの人たちを対象にした上映も大切だと思っています。

「もうろう」と呼んで「盲ろう者」と呼んで「オキナワへいこう」は、写真家でもあり、映画監督でもある大西暢夫氏が、大阪の精神科病棟の長期入院患者さんたちが沖繩へ行った

いと望む中、各々の主治医の「判断」という壁を乗り越えて実現させていく過程を、時にコミカルに、けれど真摯に向き合っている映像化された作品。大西氏は、18年もの歳月をかけて日本各地の精神科病棟の入院患者さんを撮影し続けています。患者さんの人生に重く影を落とされている「長期入院」に問題意識を持って、「もうろうをいきる」は、日本中のいろいろな地域で暮らすもうろうの方々の日常に迫っています。盲ろう者の方々の映像にすると、これは、映像と音声で表現する映画にとつて、もつとも遠い存在である人たちのことを撮影していることにま

ず驚きました。西原氏はこう伝えます。

賞に行つて、自分にもこんなのが作れたらいいなあ。こういうの描いてみたい！など、ふと思われたことはありませんか？

その瞬間の皆さまの創作意欲をすぐにも発揮していただけたところが、オープンアトリエ ENGAWA、2階でも、草薨陵太さんの制作活動体験コーナーを設けていましたよ！

「誰かが15分で有名な人になれる、そんな時代が来るだろう」(改行してください)アンディ・ウォーホルも、そんなふう

に、左右の人差し指から薬指までの6指に直接打つ方法だそうです。

もし、盲ろう者らしい方が何かお困りの様子であれば、肩や腕を軽く触れる程度にたいして気づいてもらい、手のひらに、相手側が読めるかたちで、匿名文字を書いて、意思の疎通を図ること。これなら、触手話や指文字を知らないわたしたちでも、なにかお役に立てるかもしれません。

休憩を挟んでの6時間、あつという間に過ぎたように思えるほど、とても充実した。お近くの映画館などで公開されることがあれば、ぜひ鑑賞いただきたい作品でした。

改めて、大西暢夫監督・西原孝至監督に感謝申し上げます。

「以、身、伝心」からだから、はじめてみる」のテーマのように、からだ、を使って、世界にひとつだけの作品作りをお楽しみいただけることができたでしょうか？

### オープン・アトリエ ENGAWA

9月22日から、ボーダレス・アートミュージアムNO-MAにおいて開催されていた展覧会「以、身、伝心」から、はじめてみるの会期中、NO-MAの縁側には、オープンアトリエ ENGAWA、が開設されました。



ボーダレス・エリア記者クラブInstagramアカウントはこちら  
[https://www.instagram.com/borderless\\_area\\_kisya\\_club](https://www.instagram.com/borderless_area_kisya_club)